

5 nm ノードではEUV

では、これほどのコア数を利用するにはどうすればよいでしょうか。EDAツールがクラウド(プライベートまたはパブリック)に対応していれば、コア数を無限に増やして短時間で高速に実行できます。図4と図5に、クラウドでのIC Validatorの利用モデルを示します。1つは、デザイン、ライセンス、ハードウェア・リソース、EDAツール(バイナリ)をクラウドに置いて実行するというモデルです。これは、主にプライベート・クラウドでの利用モデルとなります。もう1つは、ハードウェア・リソースのみクラウド上のものを利用し、デザイン、ライセンス、EDAツール(バイナリ)はクラウド外に置くというモデルです。IC Validatorの分散処理とマルチ・スレッディング・アーキテクチャは、メモリー容量の小さい低コストのマシンとも相性がよく、

基本的なクラウド利用モデル

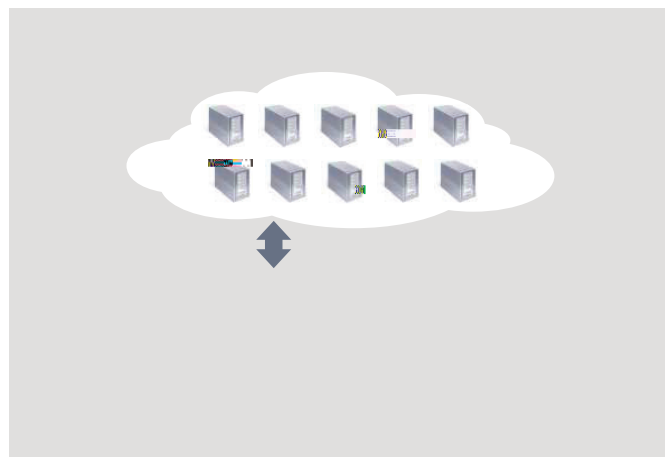
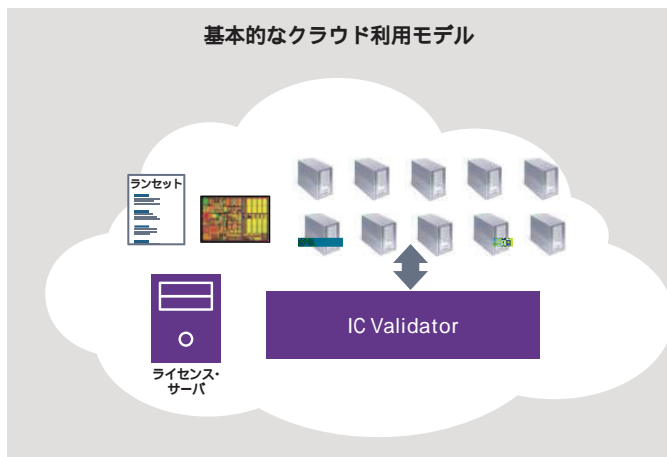


図 4 : 基本的なクラウド利用モデル